

【事業協働運営先】 一般社団法人 千代田まちづくりプラットフォーム (まちプラ)からののお知らせ



まちプラ
ウェブサイト

私たち「一般社団法人千代田まちづくりプラットフォーム(まちプラ)」は、市民提案型のまちづくり活動の助成事業である「千代田まちづくりサポート(まちサポ)」を、公益財団法人まちみらい千代田と協働で運営しています。この千代田の「まちサポ」を「地域コミュニティ」とともに発展させていきたいという思いから、活動グループのOB・OGや歴代の審査会委員が中心となって結成されたのが私たち「まちプラ」です(2016年6月設立)。

千代田の「まちサポ」では、これまでの149組の助成グループに加え、応募グループも含めた実に多くの方々とのつながりが生まれてきました。こうした仲間とともに千代田のまちづくりをさらに進めていくことが「まちプラ」の役割です。まちサポの「サポート」をはじめませんか?一緒に活動してくれるメンバーを募集しています。

問い合わせ [✉ chiyoda.machiplatform@gmail.com](mailto:chiyoda.machiplatform@gmail.com)

賛助会員一覧

法人会員

建設業	株式会社楠山設計 株式会社久保工 株式会社竹中工務店 一般社団法人 東京都建築士事務所協会千代田支部 株式会社ナカノフドー建設 日産緑化株式会社 株式会社日昇緑化研究所 パシフィックコンサルタンツ株式会社	不動産業	エヌティティ都市開発株式会社 住友不動産株式会社 東京建物株式会社 プラットフォームサービス株式会社 三井不動産株式会社 三菱地所株式会社 安田不動産株式会社 株式会社i-tec24
製造業	KKテクノロジーズ株式会社 瀬味証券印刷株式会社 東京スクリーン株式会社 株式会社日精ビーアール 日本たばこ産業株式会社 東京支店 東京東部第三支店 ノーラエンジニアリング株式会社 株式会社ハセツバー技研 ハネクトーン早川株式会社 富士フィルムビジネスイノベーション株式会社 株式会社ムレコミュニケーションズ	サービス業	株式会社弘周舎 株式会社こどもの館 株式会社翔設計 株式会社アズーム
卸売・小売業	鈴木治作株式会社 鈴新株式会社 株式会社トキワ 株式会社ユニフォームネット	その他	株式会社イサミヤ 合同会社グローバル人材育成サポート 株式会社コンベンションリンケージ 株式会社住宅あんしん保証 株式会社TALO都市企画 一般社団法人 千代田区観光協会 東洋美術印刷株式会社 NPO都市住宅とまちづくり研究会 株式会社バイオレンジャーズ ピョンドネクストアカウンティング株式会社 株式会社フィレール 一般社団法人 マンション管理組合支援センター 株式会社メジオ 株式会社リブリッジ 株式会社ワンスイン 株式会社And Technologies
情報通信業	株式会社メディアリンク		
金融業	株式会社きらぼし銀行 神田中央支店 興産信用金庫 西武信用金庫 神田支店 みずほ信託銀行株式会社		
保険業	株式会社FEA ぜんち共済株式会社 日新火災海上保険株式会社 東京事業部 東京西支店	個人会員	池 俊郎 加藤 武夫 小林 誠 佐藤 直樹 瀬川 昌輝 立山 光昭 戸田 豊重 堀部 剛正 ほか6名 法人：58 個人：14 計：72

※助成金の一部は賛助会員からの賛助会費が活用されています。

千代田まちづくり サポート通信



PICK UP !

「神田珈琲園」再生プロジェクトチーム
代表で店長の八戸建さん(写真左から2番目)
とメンバーの皆さん

※皆さんの表情をご紹介するため、飛沫防止に努めたうえで、
マスク無しの写真を撮影・掲載しています。

2020年7月に千代田まちづくりサポートの助成金を活用して建物を再建、
リニューアルオープンした「神田珈琲園」。
「珈琲を通じて、関わるすべての人を笑顔にする」という目標のもと
店長こだわりの珈琲を提供しています。
2階には展示スペース(ギャラリー)があり、地域の交流拠点、
情報交換や発信の場としても活用されています。

※詳細は12ページをご覧ください。

千代田まちづくりサポート通信 No.37 発行 2021年10月

発行者 公益財団法人まちみらい千代田 協働まちづくり・総務グループ(まちづくりサポート事務局)
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21 ちよだプラットフォームスクウェア4階
URL <https://www.mm-chiyoda.or.jp/> TEL 03-3233-7556 E-mail machisapo@mm-chiyoda.or.jp



まちサポ
特設
サイト



この冊子は環境にやさしいFSC®森林認証紙を使用しています。

[目次]	P1~2 事業・審査会概要	P3~10 応募グループの発表概要・審査会委員のコメント
	P11 会長総評	P12 まちサポトピックス
		P13~14 活動マップ

ちよだのまちづくり！
さあ、はじめよう！

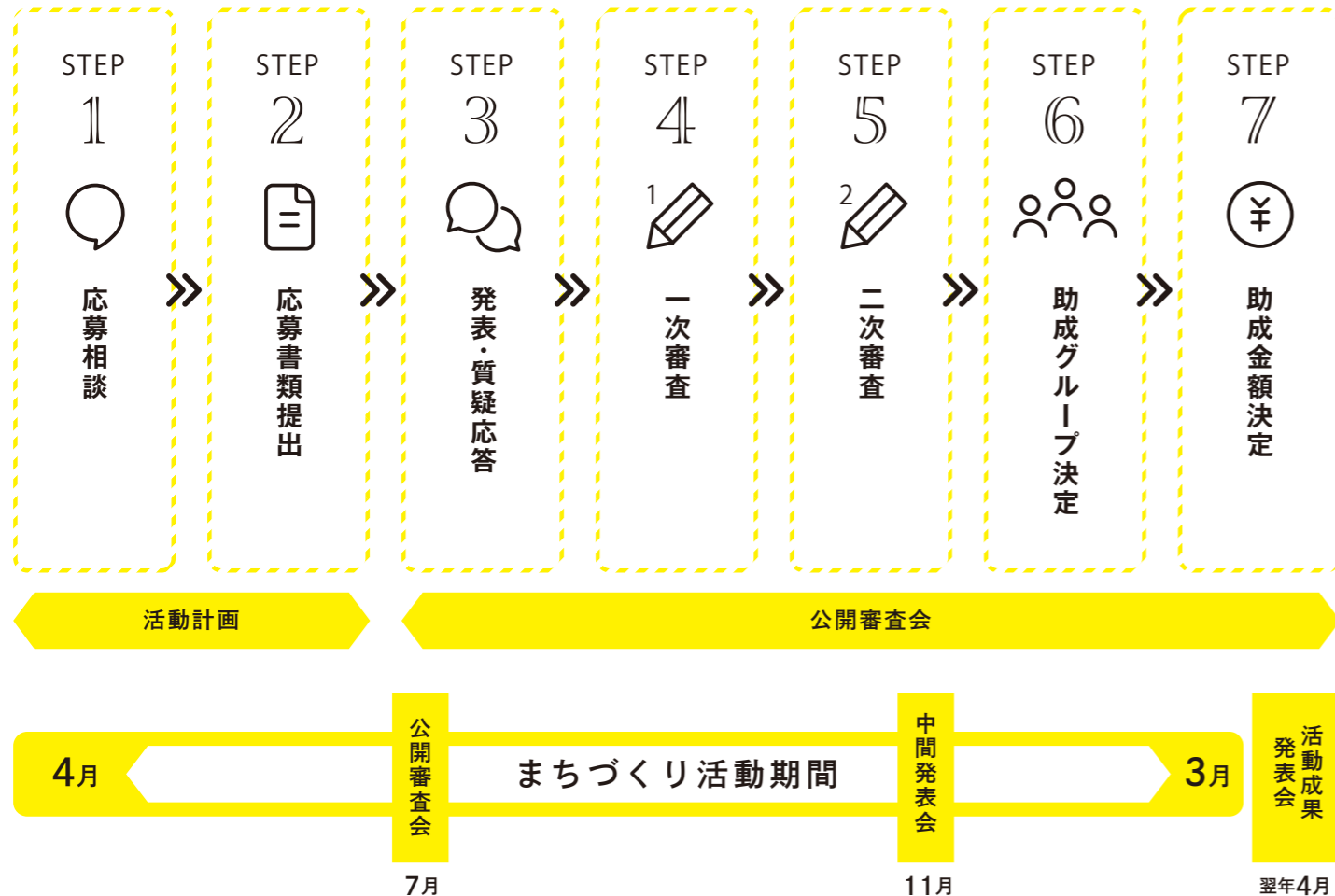
Chiyoda No Machisapo

千代田まちづくりサポート(まちサポ)は、千代田区内で自主的なまちづくり活動を行っているグループに対して、その活動経費の一部を助成する事業です。

本号では、令和3年7月18日(日)に開催した、第21回千代田まちづくりサポート公開審査会の様子をリアルにお伝えします。

コロナ禍において活動の見通しを立てるのが難しい状況の中、幅広い年代の方から応募がありました。

Process 公開審査会(一般部門)のプロセス



第21回千代田まちづくりサポート公開審査会

- 【開催日】** 令和3年7月18日(日)
- 【形式】** オンライン開催
- 【会場】** 応募グループの活動発表とそれに対する質疑応答・審査を行い、助成グループと助成金額を決定しました。新型コロナウイルス感染防止のため、発表は事前に提出された映像で行い、質疑応答と審査は「Zoom」を活用して開催しました。なお、審査会の様子は「YouTube」でライブ配信しました。

概要

【応募グループ数】 8グループ	【助成グループ数】 7グループ	【助成金額総額】 165万円
--------------------	--------------------	-------------------

※後日1グループから辞退の届出があり、助成グループ数は6グループとなりました。

【第21回の募集部門】

- はじめて部門(1年間のみ)一律5万円
はじめたばかりのまちづくり活動に対して助成します。
- 一般部門(最大3年間)5~50万円
継続して自立を目指すまちづくり活動に対して助成します。

【審査基準(一般部門)】

- 千代田区内における市民の主体的なまちづくり活動
- 地域に元気をもたらし、コミュニティの活性化に貢献する活動
- 住み・働き・学びやすく、魅力的な都市環境づくり活動
- まちづくりに対する新しい視点である活動

【審査の流れ(一般部門)】

- 発表・質疑応答
- 一次審査
発表と質疑応答を踏まえ、審査会委員が一次審査表に記載された各項目のいずれかに赤色・黄色・青色のシールを貼る。それに基づき、審査会委員が追加質疑を行う。
- 二次審査
各審査会委員がもっている4票を「活動を支持するグループ」へ投票する。過半数(4票以上)の票を得たグループが助成対象となる。
- 助成金額の決定
助成対象となったグループの申請額を精査し、助成金額を決定する。

審査表

部門	回数	応募グループ名	一次審査			二次審査	申請額 (万円)	助成額 (万円)
			●活動内容を支持し、今回のサポート助成が必要だと考える。	●活動内容についても少し話を聞き、今回のサポート助成が必要が判断したい。	●意義ある活動内容だが、サポート助成の趣旨にはなじみにくいと考える。			
一般	3	グリーンネイバーフッド千代田を目指す会	●●●●●●●●	●		●●●●●●●●	44	37
	3	ちよとも	●●●●●●●●			●●●●●●	38	28
	2	「着がえる家」実行委員会	●●	●●●●●●		●●●●	50	
	2	神田でバンダ	●●●●●●●●	●		●●●●●●●●	50	42
	1	番町っこ倶楽部	●●	●●●●●●		●●●●●●●●	50	43
はじめて	—	御茶ノ水エキメロ推進会 神保町フラメンコの会 おかゆスタンド	書類審査で助成を決定				5 5 5	5 5 5

01

グリーンネイバーフッド千代田を目指す会

withコロナの中、千代田からサポートが必要な人たちも参加できるイベントを発信する



【代表者】林 昌明 【活動メンバー】4名 【主な活動地域(場所)】日比谷公園など

活動概要

千代田区内で得意な五感が違う人たちが参加する自然観察会を開催します。助成3年目の集大成として、これまでの活動で得たノウハウをまとめたガイドブックを作成し、それに準拠したイベントを開催します。また、その結果をガイドブックにフィードバックします。



発表概要

コロナが治まらないこのような状況下でも、サポートが必要な方へ、声かけ、行動ができるような土壌を構築したいと考えています。そして、今は難しいかもしれませんが、海外からの旅行者を含むいろいろな属性の方が訪れやすい街になればよいと思います。

今回が3回目の申請になるので、今までの集大成としてノウハウをガイドブックにまとめ、そのガイドブックに準拠したイベントを開催したいです。ガイドブックには、昨年度リアルとオンラインのハイブリッドで開催したイベントのノウハウや、UDトーク(Zoomの通信機器で話した言葉が自動で日本語や英語の字幕で表示されるもの)やアンブラマップ(地図と連動しており、場所の写真やコメントなど簡単に記入、共有できるアプリ)の使い方、実際にイベントを開催する際にチラシへ記載する内容、また当日のアテンドの工夫なども記載したいと思っています。

実際のイベントでは、双眼鏡で鳥を観察したり、カワセミや鳥の幼虫が食べるエサのモックアップを触ったりしています。また、落ちている楠の枝の匂いを嗅いだり、どくだみ茶を飲んだり、落ちているどんぐりを拾って音を聞き分けたり、太鼓を叩いたりしました。実績としては計5回イベントを開催して、累計100名近くの方にご参加いただいています。

審査会委員のコメント

助成決定おめでとうございます。

3年目の集大成としてガイドブックをまとめるとのこと、ぜひこだわりを持って作成してください。身近な自然を楽しむ活動にあたってさまざまな方の参加にこだわった背景にはどんな思いがあったのか、コロナ禍の当初は実施も躊躇するなかで試行錯誤した経験は貴重な記録です。実際にやってみて参加者や皆さんが何を感じたか、それを言葉にできるのは皆さんにしかない強みです。どんな人に伝えたいかを意識してつくることもこだわりのひとつ。網羅的につくる必要はないと思います。楽しみにしています。



審査会委員
朝比奈 ゆり

02

ちよとも

千代田で楽しくつながり創り
楽しく/承認しあう/安心の場



【代表者】高橋 孔明 【活動メンバー】9名 【主な活動地域(場所)】千代田区高齢者総合サポートセンター・かがやきプラザ 相談センター

活動概要

毎月1回多世代交流の場としてオンラインによるイベントを中心に「ちよとも」を開催し、区内在住者や在勤者に新しいつながりを生む場を提供していく。また、年代・性別・国籍を問わない多世代交流の場を提供するとともに、ちよだにつながる情報も提供します。



発表概要

今年は4つのプロジェクトを始動します。1つ目は場所とつながる。私たちがいろいろな場所を使っていくことで参加者の方々にさまざまな刺激を与えられるのではないかと考えます。2つ目は、世界とつながる。広がりや可能性をもっと作っていきたいです。3つ目は、せっかく千代田区でやるので、千代田区のよさを再確認することです。私たち自身が改めて千代田区のよさを知ることで自然に千代田区のよさが広がっていくのではないかと考えています。4つ目は、さまざまな活動をしている団体とつながることで、よりよいイベントを生み出していくことです。

最後に助成期間終了後の自走についてですが、計算すると参加費300円で12名の参加者がいると私たちの活動は存続できます。peatixで集客することで現在70名ほどの参加者を獲得しています。そのうち毎回6名ほど参加があり、これを倍に増やすことができれば私たちの活動は自走できるということになります。1年で70名獲得できたので、今年もさまざまなイベントで peatix への登録者を増やし、自走可能な12名の人員を常に確保できるような状態を作っていきたいと思っています。

Q & A

- Q 参加費を300円とした理由を教えてください。
- A イベントではお菓子を食べながらいろいろな人と会話をするため、そのお菓子代と会場費などの経費を併せて300円に決めました。
- 当初から目的にしていたハブの役割を担いたいという考えが、今回具体的に増えてきたかなと感じました。特に自分たちが場所を変えて移動するというのがすごくよいアイデアですね。いろいろな会場の可能性も見えてくるし、ちよどもの場を作る力がほかの団体にも生かされてよい連携が生まれそうでワクワクしました。
- Q 代表に体調不良などがあった場合に組織として大丈夫でしょうか。またメンバーそれぞれの役割について教えてください。
- A 実は私はほとんど業務をしていません。ほかのメンバーがそれぞれ自分の得意なところを担当しています。例えば今peatixを管理してくれているメンバーが忙しくて対応できないときはほかの担当の人が手伝うということをやっています。ちよともはゆるくつながるということ、ゆるくつながる場を作ることが念頭にあるので、メンバー自身もリラックスして自然にゆるくやっています。難しい時は必ず全体のLINEで相談して、サポートし合う体制をとっています。
- Q ちよともが千代田区全体のハブになるというのはよいことだと思います。一方で組織自体の持続可能な役割分担もできてきていると思います。ほかのグループにもそのノウハウを共有して欲しいです。
- A 代表が頑張らないというのが大事な点だと思います。

審査会委員のコメント

今回で3回目の助成審査ではありましたが、非常にグループが円熟している印象を受けました。コロナ禍の中、オンラインという新たな交流の場をつくれ、新たなつながりを生む場所を提供し続けていることは非常に素晴らしいと思います。ほかのまちづくりグループとのコラボについても、今後のスケジュールに組み込んでいることから、さまざまな相乗効果の発生や、まちづくりグループの中心を担う活動を期待しています。過去のワールドカフェで話されている「縁」は「点と線である」との表現が印象的であり、千代田の街にはマンション住民も多く、コミュニティの広がりは簡単ではありませんが、点を線でつないでいただき、ちよどもの「輪=円=縁」を広げていってください。



審査会委員
吉田 渉

03

「着がえる家」実行委員会

海老原商店におけるアートプロジェクト
「着がえる家」の実施



【代表者】 宍戸 遊美 【活動メンバー】 3名 【主な活動地域(場所)】 海老原商店(神田須田町2丁目)

活動概要

「生活と装い」「住み開き」「新しい古着屋」をキーワードに、東京ビエンナーレ2020/2021会期中、新しい「海老原商店」の期間限定の店主として、住み込み型のプロジェクトを展開する。具体的には、(1)常設展示、(2)ワークショップ、(3)店舗という3つの要素でプロジェクトを展開する。



発表概要

昨年に活動を開始した「着替える家」プロジェクトは今年度も継続して活動を行います。国際芸術祭「東京ビエンナーレ2020/2021」の開催期間58日間と合わせて「着替える家」のプログラムとして36回ワークショップを開催します。そのひとつとして、皆で手洗いの洗濯をして、海老原商店の側面などに洗濯物を干すというワークショップを行います。干した光景の記録もします。海老原商店の中に試着室も用意してあるので、気に入ったものがあれば着てもらうこともできます。服とコミュニケーション、服とアイデンティティ、服と家族といったものをテーマにした作品を展示します。また、小さなころに着ていた服を大人の自分が着られるようにした服も展示します。昨年の活動と異なる点としては、集中した活動期間を設けていること、東京ビエンナーレと同時に開催することで、多くの人に活動を周知すること、アーティストである西尾美也の作品も同時展示することで、活動内容をより深く理解することができる点です。「着替える家」プロジェクトの新しい展開を進めていきます。

審査会委員のコメント

アートプロジェクトの新たな可能性を体現する東京ビエンナーレが始まった直後の審査会となりました。アーティストの西尾美也が全面的にコミットメントした取り組みの意義や成果については、誰もが納得し、心動かされる場所がありました。議論となったのは、その活動の継続性や発展性でした。まちづくりの観点からは、この取り組みを通じて、海老原商店という場を生かしたプログラムを企画し、運営していける人材を育てることが最も期待されることだと思います。質疑応答では、そうした人材の存在が示唆されました。ビエンナーレの実現、実行という大事に取り組む過程で、千代田のまちづくりの次につながる芽を育てられたならば、それは快挙に違いないでしょう。



審査会会長
中島 直人

04

神田でパンダ

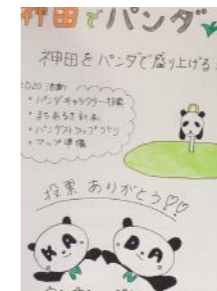
「神田でパンダ」
神田のまちをパンダで盛り上げよう



【代表者】 石垣 曜子 【活動メンバー】 8名 【主な活動地域(場所)】 神田錦町キンキン広場、神田警察通りなど

活動概要

“STAY HOME”によりマンション住民の方々は地域のきずなの重要性に気づき、地元企業の方も地域への責任を感じ取っていただけていることと思います。その中で、昨年投票で決定したパンダキャラクターで、遊び心をもって街のさまざまな場所に広めることによって、神田の街を盛り上げます。



発表概要

私たちの活動のきっかけになった、パンダの遊具がぼつんとあるキンキン広場は、一昨年ネットやテレビに取り上げられた後、今でもときおりSNSで話題になっています。また、上野動物園では双子の赤ちゃんが生まれたというニュースがありました。去年投票で選ばれた神田でパンダのキャラクター、カンカンとダンタンは上野に先駆けて生まれた2匹のパンダなので、もっと多くの人に知ってもらいたいと思っています。今年もコロナ禍の中での活動になりますが、なんとか工夫を凝らし、子どもから大人まで、住民も働いている人も、企業やお店も、みんながパンダで1つになって地域を盛り上げることを目標に、主に3つの活動を行いたいと思っています。1つ目は「密にならないまちあるき」です。去年計画したクイズスタンプラリーの企画を実行に移したいと思っています。2つ目は「パンダマップ」です。子どもも大人も神田をもっと楽しく知ってもらえるようなマップを作成し配付したいです。3つ目は「参加して笑顔に」です。パンダの塗り絵や川柳、インスタのフォトコンテストなどを活用して、子どもも大人も参加しながら神田の街やパンダを楽しめるような企画を考えたいと思っています。また、オンラインを活用し神田の歴史講座やSNSでの発信も積極的にしていきたいです。少し遠回りしてでもわざわざ行きたくなくなるようなお店がある、そこで神田に以前から住んでいる人と顔見知りになれる。そんな街を目指し、今年も神田でパンダは頑張りたいです。

Q & A

- Q 今はコロナの影響で閉まっている店もありますが、今後商店街の組織とのコラボのようなものについて考えていますか。
- A 商店街など既存の組織の枠を超えた活動を目指しているところもあるので、組織に入っている、いないに関わらず頑張っている人を応援できるような活動をしたいと思っています。
- Q 先日テレビでキンキン広場のパンダが紹介されており、そのインタビューで、もう一つ遊具があれば友達と遊べるのにと子どもが話していたが、何か遊具を置くなどの計画はありますか。
- A 去年撮影会「パンダが遊びにやってくる」と称して、遊具ではないが、乗ることができるパンダを置いたところ、好評でした。今年もやってみようと思っています。
- Q 収支計画のところ、ぬいぐるみや手ぬぐいなどの収入の見込みがありますが、見積額が低く感じます。フィギュアや動画作品など広げていくこともできると思うので検討して欲しいです。有名なキャラクターとのコラボなどもできたら注目度が増してよいのではと思います。
- A もし販売できるのであれば販売していきたいが、まだまだ知名度は高くないと思っているので、収支計画では低く見積もっています。
- Q ファンクラブの会費が収入に入っていますが、現在会員数はどれくらいですか。また、広場にある掲示板を活用するの人も呼ぶ方法の1つだと思います。
- A 昨年は約10法人から協力のお申し込みがありました。イベント開催時などに周知し、個人会員も募集していきたいです。

審査会委員のコメント

何とも言えない語呂が印象的なこの活動。都会のド真ん中に設置されたパンダのシュールなたたずまいが、マスコミやSNSで多く取り上げられ、徐々に地域に根差した活動へと定着しつつあります。「希薄になってしまった地域コミュニティを『神田でパンダ』というダジャレのようなユーモアでつないでいける社会を目指したい」と活動メンバーはおっしゃっていました。もしかすると、地域課題解決のヒントは、こうした緩やかなつながりの中に隠れているのかも知れません。



審査会委員
菊池 洋光

05

番町っこ倶楽部

馬と遊び、馬に学ぶ



【代表者】佐藤 洋平 【活動メンバー】4名 【主な活動地域(場所)】番町の庭

活動概要

番町地域を中心に地域コミュニティの形成に向けて、馬と子どもたちのふれあい体験イベント「馬と遊び、馬に学ぶ@番町の庭」を実施します。これまでは自己資金で開催してきましたが、今後は企業、住民の皆さんと協議し、イベント内容を磨き上げ、持続的な活動を目指します。



発表概要

番町っこ倶楽部は番町地域に密着したサークルです。毎年11月に「馬と遊び、馬に学ぶ@番町の庭」という本物の馬を連れてきて、子どもたちに触れ合ってもらいイベントを開催しています。ほかにも地域の人たちとコミュニケーションをとるため、地域に根付いたさまざまな活動を行っています。

なぜこうした活動をしようと思ったかという、番町の庭にあるNo.4というお店の形が、厩舎の形に似ているなど思ったのがきっかけです。これまでのイベントは地域の人たちからの協力を得て成功させることができました。番町って面白い町だなと思い、もっと活動の幅を広げていきたいと考え番町っこ倶楽部を立ち上げました。

今後の活動として、番町地域の人たちと一緒に野菜を育てられる、番町ファームを作りたいと考えています。番町で作った人参を馬に食べてもらうのが夢です。また、番町はとても歴史のある町なので、将来的には番町地域の歴史が分かる番町アーカイブスを作りたいです。ぜひお力添えください。

Q & A



- Q 持続的に活動していくために具体的にどういった体制作りをしようと考えているか教えてください。
- A 馬のイベントをメインで活動しているが、子どもに参加してもらいたいので参加費などは取らないようにしたいです。そのため、それ以外の活動で参加費をもらって活動していくことを検討しています。

- Q まちサポの助成を受けて、今後活動の幅を広げていくことも考えていますか。

- A まだ企画段階なのでお話しできないのですが、いくつかアイデアがあります。

- Q これまで神田地域で活動するグループの応募が多かったので、麹町・番町地域のグループから募集があり嬉しく思っています。資金面について、地域の企業から協賛金をもらうことなどは考えていますか。

- A 現時点でもさまざまなサポートをいただいています。助成を受けて、開催の頻度を増やしたり、関わってもらえる人を増やしたりしていきたいと考えています。

審査会委員のコメント

馬は歴史的には人の暮らしに身近ですが、都会の真ん中で馬に触れたり乗ったり絵に描いたり、現代ではなかなかできない尊い体験です。大きな馬の体に触れる時、人と自然界とのつながりを一瞬思い出すのかもしれない。子どもたちはいったい何を感じているのでしょうか？馬と触れ合う体験の喜びをもっともっと発信してください。活動を継続するには、馬の貸し出し費用の捻出が最大の課題。参加者からの協力金、賛同者からの資金支援、その他、馬をテーマとして収益を得られる活動を工夫することも考えられます。グッズや冊子、ニンジンジュースなどの販売??参加者と一緒に考えてみるのもいいかもしれません。



審査会副会長
奥村 玄

06

御茶ノ水エキメロ推進会

JR御茶ノ水駅に発車メロディーを！



【代表者】鈴木 宏昌 【活動メンバー】4名 【主な活動地域(場所)】JR御茶ノ水駅

活動概要

明大通りのバリアフリー歩行空間整備事業などに合わせ、ハード面とともにソフト面からも神田地域の活性化に向け活動します。具体的にはJR御茶ノ水駅の発車メロディーを設けることを目指します。朝夕の通勤・通学・観光など、御茶ノ水を気持ちよく安全に利用されることや地域の盛り上がりにも貢献したいと考えています。



発表概要

各地の駅を訪れると地域にあった曲が流れ、その曲の歴史・生い立ちを考えるよい機会になっています。現在、御茶ノ水駅周辺の明大通りの歩道幅広工事、JR御茶ノ水駅のバリアフリーの整備工事などが行われていて、まちづくり協議会も何度か開催されています。そこではハード面の提案が多いため、ソフト面から地域の活性化を行いたいと思い、グループとして応募しました。

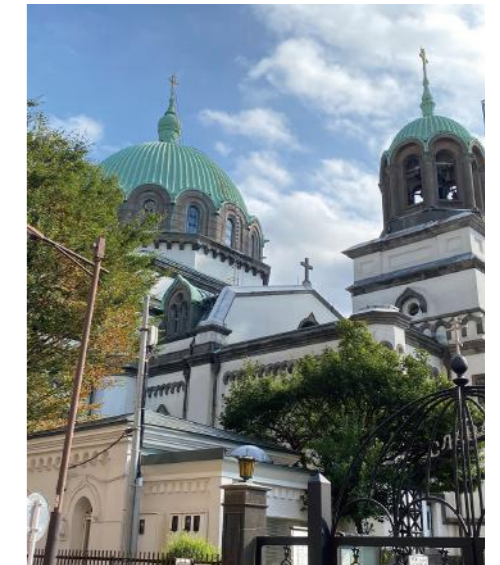
御茶ノ水駅には、多くの楽器店があり、商店街の皆さんの支援でジャズのライブイベントなどが多く行われています。大学の出身者には宇崎竜童さんや阿木耀子さん、阿久悠さんと有名な方が多くいます。今回は古賀政男さんの「東京ラブソニー」という曲を発車メロディーにできたらと考えています。曲の中で「神田は思い出の街」、「ニコライの鐘はなる」といったフレーズが入っています。

選曲は地域の皆さんから愛される曲であるべきだと思っており、地元縁のある曲であることを前提に、この曲を選びました。

Q & A



- Q 曲の選定について、駅の利用者からの意見も取り入れながらできればよいと思います。何か計画はありますか。
- A 幅広い層から同意を得る必要があると考えています。ほかの曲がよいとの意見があれば、それも取り入れて検討していきたいと思っています。



審査会委員のコメント

御茶ノ水と音楽との関係に着目した活動の企画は大変新鮮で、魅力的でした。審査会委員からの意見にもあったように、曲の選定やエキメロの実現の過程そのものが地域に開かれ、多くの人々の参画を可能にするようなものにできれば、より有意義な活動になるでしょう。また、これを契機に、御茶ノ水というまちに眠るソフトな資源としての音楽文化の掘り起しが広がっていくことも期待されます。審査会后、コロナ禍の関係で目的達成が困難とのことで助成を辞退されたことは誠に残念ですが、ぜひ次回さらに広がりのある企画を持って、再度挑戦してほしいです。



審査会会長
中島 直人

07

神保町フラメンコの会

“神保町フラメンコ”

文化の町、神保町をフラメンコで盛り上げたい！！



【代表者】 手下 倭里亜 【活動メンバー】 4名 【主な活動地域(場所)】 御茶ノ水、神保町エリア

活動概要

フラメンコには人を元気にするパワーとエネルギーがあります。イベントが開催できない今、オンライン配信とオフラインイベントを組み合わせ、だれもが楽しめるフラメンコのイベントを主催します。イベントではただ鑑賞するだけではなく自ら踊ることができる参加型のものを考えております。



発表概要

文化の町神保町をフラメンコで盛り上げたいという思いで活動しています。応募した理由は、小川町はスポーツの街、御茶ノ水は楽器の街として有名ですが、舞踊関係で有名な街がないということで、神保町からフラメンコの魅力を発信していきたいと考えたからです。

フラメンコには人を元気にするパワーとエネルギーがあるので、コロナの影響で元気のない街を元気にしていきたいです。イベントを通して多くの人を神保町に誘致することで、神保町の魅力も発信できると考えます。活動内容としては、オンライン・オフライン両方のイベントを考えており、誰もが参加して、一緒に踊って楽しめるイベントを開催します。フラメンコは老若男女や国籍を問わず参加できるワールドワイドな文化なので、それを日本の中心である、千代田区から発信することに大きな意味があると考えています。

これまでも千代田区のさまざまなイベントに参加していますが、スペイン料理店や楽器店など、フラメンコと関連のある商店と協力することで、神保町界隈へ人の誘致が実現し、地域の活性化に貢献できると考えます。また、オンラインイベントを通して、神保町から世界にフラメンコと地域の魅力を発信できると考えています。

Q & A



■ 神保町は本の街、学生の街であるが、そこにフラメンコ、舞踊の街というのが加わるとさらに魅力ある街になると思います。いろいろなイベントに参加して、活動の幅を広げてください。一歩一歩積み重ねて頑張ってください。

■ スタジオの宣伝として受け取られてしまうと本意ではないと思うので、地域との協力について具体的に示す方法を考えて欲しいなと思います。協賛を得るとか、ビデオの中に地域の紹介を入れるとか、関連するお店のマップを入れるとか、地域という視点を前面に出して活動すると、多くの賛同が得られるのではないかと思います。



審査会委員のコメント

千代田区内でもまちづくりのテーマに事欠かない神田神保町地区だが、前例のないユニークな企画。スポーツ店・楽器店と合わせて有名な「古書店の街」神田神保町。秋に開催される本のイベントなどには多くの人は集まるが、「神保町フラメンコの会」は既存イベントへの協力だけでなく、独自の取り組みに挑戦されます。地元でスタジオを運営される代表者は舞踊家ならではの専門知識と実力があり、人脈を駆使して地域のイベントにも多く関わってきました。地域事業者や住民、そして街を行き交う人々を巻き込み、観て踊って学んで元気になってほしいです。コロナ禍で活動が制限される中、柔軟な行動計画が必要だが、そこはラテン気質なフラメンコならではの情熱で神保町の魅力発信を期待したいです。

審査会委員
柿内 健介



08

おかゆスタンド

朝がゆで“ほっと”をお裾分け

おかゆスタンド

コンセプト

- ・ コロナの影響もあり、これまで以上に地域のつながりが希薄になっている今を改善する、きっかけづくり。
- ・ この街であっという間に、と感じ、まだない「美味しいおかゆ」を通じて、地域の方々との交流を図りたい。
- ・ 心温まり、おなかに優しいおかゆを、街のみなさんにも届けたい。



【代表者】 佐藤 史織 【活動メンバー】 3名 【主な活動地域(場所)】 番町エリア

活動概要

早朝をメインにリヤカーを利用して、番町でオープンエアの場所におかゆスタンドを立て、朝がゆをお裾分け(提供)します。おかゆをメインに、要望があればおにぎりやコーヒーもお裾分けし、なくなり次第終了します。年3回程度の不定期開催で「美味しいおかゆ」を通じて地域の方々との交流を図ります。



発表概要

テーマは「朝がゆで“ほっと”をお裾分け」です。コロナの影響もあり、これまで以上に地域のつながりが希薄になっている今を改善するきっかけとして、おいしいおかゆを通じて、地域の方々との交流を図りたいと考えました。心温まり、おなかに優しいおかゆを、街のみなさんにもお裾分けしたいと思います。活動のイメージは、早朝をメインにリヤカーを利用して、番町でオープンエアの場所におかゆスタンドを立て朝がゆをお裾分けします。朝早くから仕込みをし、7時からおかゆを提供、9時頃には片付け、撤収する予定です。活動頻度については、今回が初めての試みなので、まずは年3回を目標に不定期開催していきたいです。まちづくりに貢献できる点としては、朝がゆを街の人とシェアできる、朝がゆをきっかけに地域の方々との交流できる場を作り、地域コミュニティの活性化につなげることができる、朝の散歩のきっかけになり、運動不足の解消、健康増進を図ることができる点です。第1回目はもう少し、涼しくなったころに開催したいと思います。その際は皆さんぜひお立ち寄りください。

Q & A



Q これまでにこういったまちづくり活動をされたことがあるのでしょうか。番町の庭での開催を考えているとのことでしたが、ほかのイベントとの連携などは考えていますか。

A 番町っこ倶楽部の活動に参加したことがあります。番町の庭以外での活動も考えています。

■ 現在不定期開催とのことですが、地域コミュニティに根差していくために、今後は定例化していくことを目指してほしいです。

■ 番町で栽培した野菜を使っておかゆをつくるなど、千代田区での地産地消ができるとよいと思います。作り手との交流もでき、関わる人が増えて継続的な活動につながるのではないかと思います。

Q フードロスの活動団体との連携などは考えていますか。

A 今後検討していきたいです。

審査会委員のコメント

番町で朝がゆが食べられる？その場所は地域の交流の場所となっている「番町の庭」。そこにはバン屋さんがあるので、おかゆがあれば相乗効果でより人気が出るでしょう。そしてここではさまざまなイベントが開催されているので、共催できれば更に認知度が高まると思います。おかゆで知り合った人達がお供のお供を持ち寄り合い、更に輪が広がっていく、そんな光景も想像できます。食品衛生法の縛りなどがあるかもしれませんが回数をもう少し増やして、定期的におかゆスタンドが設置できれば、地域の方も立ち寄りやすく交流も深まると思われれます。今回の活動をステップに次回は是非、一般部門にチャレンジしていただきたいです。

審査会委員
小野寺 健志



会長総評

今回の審査会を、ひと言で表すと「量より質」だったと思います。全グループが企画・提案した活動が展開されれば本当に素晴らしい千代田のまちづくりが実現するだろうなと思いました。応募グループが少なかったの、ひと言ずつコメントしたいと思います。

～グリーンネイバーフッド千代田を目指す会～

当初、私には千代田の個性・固有性を生かした活動の特色がはっきり見えなかったのですが、この3年間の中で極めてユニークで、大事ではあるのになかなか取り組まれないことにしっかりと実績を積み重ねました。今回ガイドブックを作成されるとのことで、まちサポにとっても大事な成果になるのではと期待しています。ぜひ多くの皆さんにも広めてほしいと思います。

～ちよとも～

実は1年早く送り出しても大丈夫なのではと感じていたの、私は票をいれませんでした。活動を担っている皆さんがとても楽しくゆるやかに繋がっていて、サポートがなくても活動できるのではと思ったほどですが、結果として入っていただけてうれしいです。ちよともが存在でよりグループ同士のつながりが活性化することを期待しています。

～「着がえる家」実行委員会～

これまで2年間の活動や東京ピエンナーレなどの活動を通じて人材を育ててほしいというのが正直なところでした。海老原商店を使いこなす人たちが増えれば、千代田や神田が生き生きとくるでしょう。特にピエンナーレという非常に大きなイベントの中での経験は大変貴重なものになると思います。今年は残念な結果となりましたが、その経験を生かし、来年はその人材が応募してきてくれることを期待しています。

～神田でパンダ～

上野や御徒町のパンダを用いたまちづくり活動団体と連携すれば、相乗効果で取り上げられる回数も増えますし、神田をパンダまちづくりのネットワークのハブとしてその中心に位置づけていただければ、活動の価値も向上し、地域の人たちにも誇りを感じていただけるのではないかと思います。

今回は、応募者の年齢の構成が非常に多岐にわたっており、20代から70代まで幅広い年代の方がまちづくりサポートに関心を持ち応募いただいたのは大変うれしいことでした。多くの場合、まちづくりという基本的な年齢の高い方が担うとか、また違う形では若い人だけになるなど、かたよがりが見られがちですが、千代田のまちサポはバランスよく、幅広い年齢層の方が主体的に関わっているというプログラムになっています。今後も多くの世代の方に届くよう、この仕組みをより改善・発展させていきたいと思いました。

最後に以前この総評の中でうれしい傾向として、アートやデザインに携わる人たちがサポート事業に応募してくれるようになったと

～番町っこ倶楽部～

このサポートが受けられる期間をサステナブルな活動を模索する期間に充てていただきたいと思います。具体的には、家族経営もいいのですがもう少し人材を増やしていくとか、スポンサーの方々に対するアピールなどいろいろあると思いますので、ぜひ持続可能な活動をしていただきたいと思います。

～御茶ノ水エキメロ推進会～

この活動を通じてぜひやっていただきたいのは、エキメロを1つの音楽文化の資源としてとらえ、御茶ノ水の音楽文化の歴史あるいは蓄積が顕在化するような活動を展開していただきたいということ。神田出身の音楽文化はおそらく「東京ラブソディ」だけではなくたくさん存在しているはずで、御茶ノ水で発掘して人々に伝えていく活動を展開していけば、とても広がりがある面白くないかと思いません。

～神保町フラメンコの会～

今までのイベントは、おそらく屋内だけでなく屋外でも行われていますね。より多くの方が見られる取り組みになっているので、開かれた形でこのフラメンコというものを展開していただければと思います。

～おかゆスタンド～

おかゆの味、おかゆそのものにこだわりを持っていただき、ぜひ千代田産の何かを使うとか、千代田と縁のある「千代田のおかゆ」というものを最終的には開発していただくと嬉しいなと思っております。

いうことを申し上げました。まちづくりを多くの方に共感をもっていただくためには、発表や、資料、企画などしっかりと意図をもってデザインしていくことが大事です。千代田区のまちづくりは千代田の粋なスタイルを生かした、質の高いデザインを展開してほしいという気持ちがありますし、そのような傾向は募集のポスターやチラシもデザインされたものを作成するなど、まちサポにも数年前からみられます。

さらに、まちサポのネットワークの中には、デザインに強いメンバーがいると思いますので、そういったものを活用し多くのグループがデザインに気を配れば、その活動がより多くの方に届くのではないかと思います。

審査会会長 中島 直人

まちサポトピックス

第19回助成グループ

「神田珈琲園」再生プロジェクトチーム

[代表者]八戸 建 [活動メンバー]10名 ※応募申請時 [主な活動地域(場所)]神田珈琲園(鍛冶町2丁目)

■概要

神田駅の高架下で1958年から60年営業を続けてきた「神田珈琲園」は、JRの耐震補強工事に伴い、既存の建物を解体し、2018年5月に休業閉店しました。一時は退去または移転の危機にひんしましたが、同じ場所で店舗を再建できる目途が立ち、その後いくつものハードルを乗り越えて、2020年6月末に竣工、7月にリニューアルオープンすることができました。閉店前には、昭和の雰囲気や漂う店舗を惜しむ声が多くあり、その雰囲気をなるべく残しながら、現代的な要素も加わった店舗になっています。※整備費用の一部に、千代田まちづくりサポートの助成金が活用されています。

■現在の状況

2年間の休業期間を経て、オープンした当初に感じたのは、まちの景色・雰囲気が大きく変わったなということでした。神田駅周辺に古くからあったお店が閉店や移転で無くなって新しいお店に替わったり、新しいマンションが建ったりして、まちを歩く人たちが変化しました。今では自転車子どもを幼稚園や保育園に送り迎えする方たちをよく見ますが、以前では想像もなかった景色です。また、まちの景色が変わっていくにつれ昔のことを知っている人もかなり減ってしまいました。そうした中で、60年前から変わらない場所で、人と人のつながりが維持できる場所を提供できればと思い日々営業しています。



現在にはコロナの影響もあり少ないですが、社会福祉法人の方やほかの団体の方にも打ち合わせやイベントなどで店舗をご利用いただいています。2階には展示スペース(ギャラリー)もあり、2週間毎にさまざまな出展者の方の作品を展示しています。



■今後の展望

新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、常連のお客さんがかなり戻ってきました。今後は子どもや女性(ママ友など)が気軽に集まり、コーヒーを飲みながら、ざっくばらんに話し合える場所にしたいです。地域の皆さんに支えられて今までやってこられたので、少しでも恩返しできればと思っています。まちの喫茶店を目指して、今後も神田でお店を続けていきたいです。



■活動グループに向けてひと言！

イベントの開催場所やグループでの打ち合わせ場所として利用いただけると幸いです。希望される場合はご連絡ください。また、店舗の入り口に掲示板を設置していますので、広報チラシなどの掲示場所としてぜひ活用していただければと思います。

ご利用の相談は神田珈琲園ウェブサイト(右記二次元コード)のメールフォームから。ご連絡お待ちしております。



※皆さんの表情をご紹介するため、飛沫防止に努めたうえで、マスク無しの写真を撮影・掲載しています。

Map 活動マップ



07
神保町フラメンコの会
(御茶ノ水、神保町エリア)



おかゆスタンド

コンセプト

- ・コロナの影響もあり、これまで以上に地域のつながりが希薄になっている今を改善する、きっかけづくり。
- ・この街であつたらしいな、と感じ、まだない「美味しいおかゆ」を通じて、地域の方々との交流を図りたい。
- ・心温まり、おなかに優しいおかゆを、街のみなさんにも届けたい。

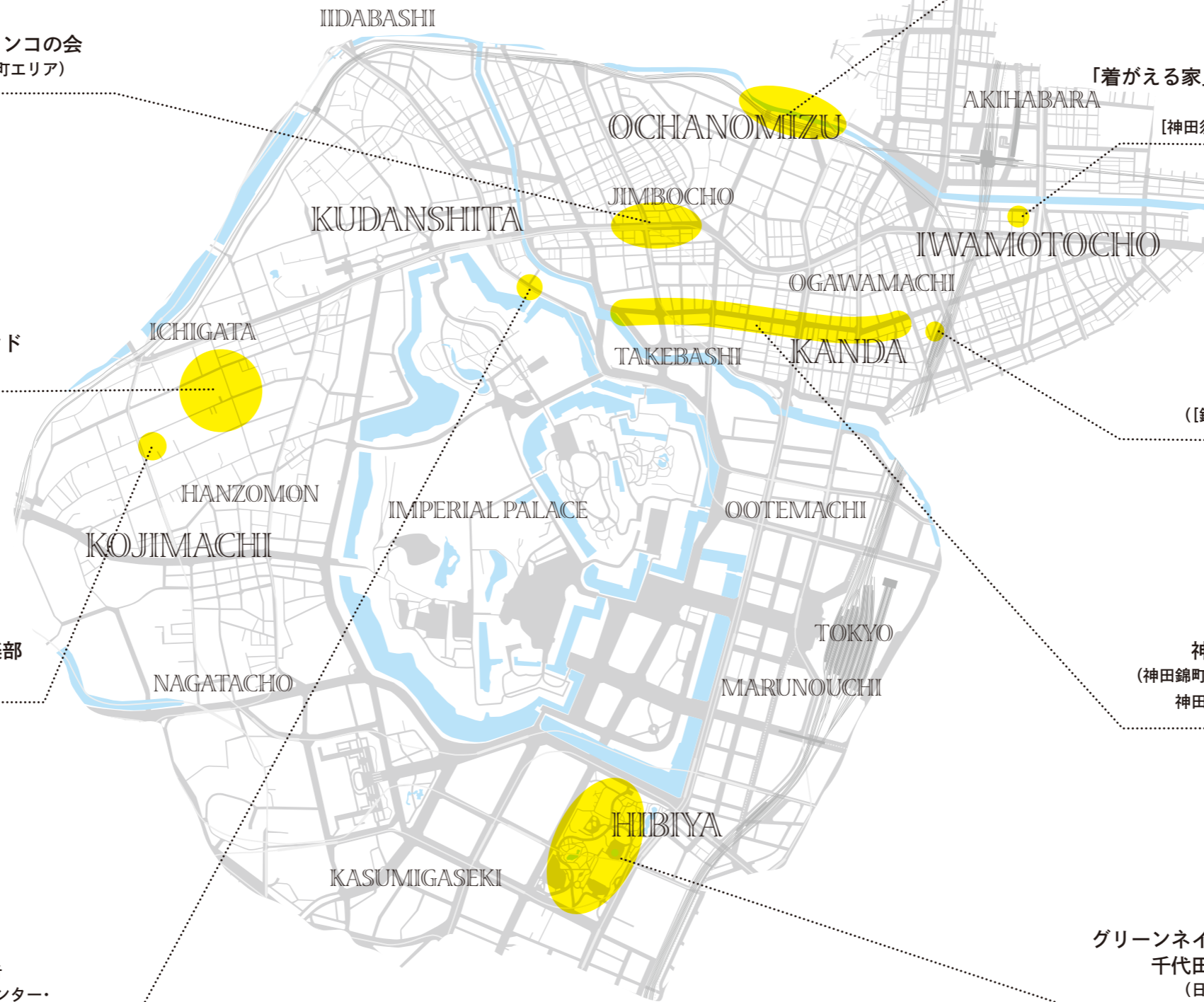
08
おかゆスタンド
(番町エリア)



05
番町っこ倶楽部
(番町の庭)



02
ちよとも
(千代田区高齢者
総合サポートセンター・
かがやきプラザ 相談センター)



06
御茶ノ水エキメロ推進会
(JR御茶ノ水駅)



03
「着がえる家」実行委員会
(海老原商店
【神田須田町2丁目】)



神田珈琲園
(【鍛冶町2丁目】)



04
神田でパンダ
(神田錦町キンキン広場、
神田警察通りなど)



01
グリーンネイバーフッド
千代田を目指す会
(日比谷公園など)

